

知っておきたい心肺蘇生の方法とAEDの使用

しんぱいそせい

緊急要請が集中する災害時は、救急車がすぐに到着することは期待できないため、医療機関に引き継ぐまでの間に自分たちでできる応急処置をしなければならない。特に呼吸や心臓が止まった人の命は、いかに早い段階で応急手当を開始するかが生死を大きく左右する。



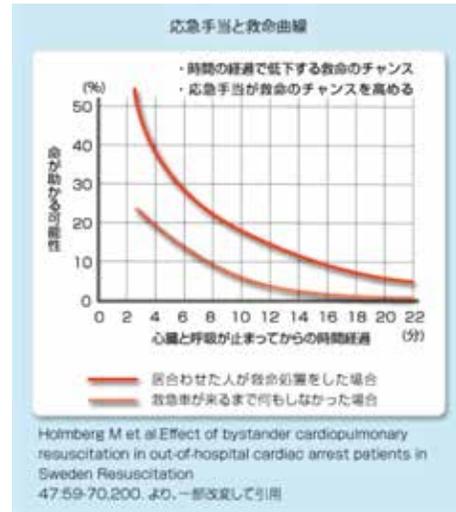
心肺蘇生を学ぶ (南光台東中)

目の前に倒れている人がいたときに、自分たちで今できることは何かをとっさに判断し、行動できるようにしよう。

1 救命の連鎖

右の図は、呼吸停止や心臓停止の緊急事態から救命処置を始めるまでの時間と、救命の可能性の関係を示したものである。救命の可能性は時間が経過するとともに低下していくので、その場に居合わせた人が迅速に対応することが必要になってくる。

心肺停止に関わる救命の効果を高めるには、予防から二次救命処置までがうまくつながって行われることが必要である。これを「救命の連鎖」という。



2 AEDの場所を知ろう

AEDは学校などの公共施設だけでなく、駅やショッピングセンターなど人がたくさん集まる場所にも設置されている。自宅近くや普段利用する施設のどこにAEDが設置されているのかを日頃から知っておくと、いざというときに迅速に対応することができる。AEDが設置されている場所にはこのような表示があるので確認しておこう。



3 心肺蘇生の方法とAEDの使用

授業や講習会などで、何度も確認しよう。



? 調べよう

自宅近くのAED設置場所はどこだろう。調べてみよう。